

令和元年度 学校自己評価表4段階評価(A:達成できたB:ほぼ達成できたC:あまり達成できなかったD:達成できなかった)

自己評価評価基準  
 A:達成できた(A=100%) B:ほぼ達成できた(80%≦B<100%)  
 C:もう少し(60%≦B<80%) D:できていない(D<60%)

評価項目	評価計画				自己評価		改善方法	
	年度重点目標	具体的方策	評価項目・指標	目標値	達成度	評価(3月)	次年度の主な課題	改善方法
教務	生徒の学力に対する意識の向上	定期考査の結果を整理し、職員会議等で報告、現状の分析と今後の課題等を共有し、教科会等で意見交換ができるような仕組みを作る。	職員会議での定期考査結果報告の実施	100%	70%	C	定期考査の結果を整理し、各教科主任と情報を共有することができたので継続したい。  各教科との情報共有はできている。今後は教務部としての機能研究に努めたい。  タブレットを使用した出席管理により、生徒の出席状況を即座に把握し、迅速に対応することができている。  職員朝礼を通して生徒の授業意識低下防止を励行した。  令和2年度を試行期間とし、令和3年度導入に向けて仕組み等を整備したい。	
		外部テストの結果分析のための手段として、Classi、スタディサプリ等を活用することができないか、機能を研究する。	ベネッセ外部テスト結果の可視化と共有	100%	70%	C		
	出席率の向上・退学者の減少	出席データを1ヶ月単位で整理し、報告、共有することで、問題点を早期に発見し、学年部長や学級担任等、関係教員と連携した対策が取れるような仕組みを作る。	職員会議及び朝礼での出席データ月間統計報告実施	100%	90%	B		
	緊張感と当事者意識を持たせる授業の意識化	全教員へ呼びかけを行い、緊張感と当事者意識を持たせる授業の実施に努める。	職員朝礼・教科主任会議での呼びかけの実施。定期考査結果報告での呼びかけの実施	100%	70%	C		
	観点別学習状況の評価の導入準備	観点別評価に関する情報収集を行い、観点別評価導入に関するシミュレーションを行いながら、本校に最適な仕組みづくりを目指す。	5月スケジュール作成。校内での検討と校外関係機関との調整を行い、全体へ提案	100%	100%	A		
生徒指導	規範意識を育む	①日頃の生活の中で、特出すべき行いがあつた生徒をipadに掲載し、生徒がロイノートで確認できるようにする ②クレーム内容と数を把握し、データ化する。生徒も閲覧可能にし、日頃行動する際の注意事項として意識させる	クレーム数年間10以内を目指す	100%	50%	C	全てのクレーム数を把握することができていないため、学年と協力して全体数の把握と、クレーム数ゼロを目指したい。  時期を一定期間にまとめ、全体が挨拶運動をしやすい環境を作り、全体が積極的に行えるよう改善を図る。  状況に応じて対応できるよう、問題把握に努め、適宜配置換えを行い、未然防止を図る。  様々な問題に応じて、出来るだけ生徒に心に響く取組みなどを実施していく。  定期的な専門委員会の開催。そこでの月ごとの取組み、年間通して継続して行える取組みを常に委員会にて考案させる。	
	挨拶の励行	①すべての専門委員会を週番で挨拶運動に参加させる ②学年別の挨拶運動 ③教員の挨拶運動	生徒会・学年・教員の挨拶運動の実施	100%	50%	C		
	登校・下校指導の強化	①問題の多い箇所に教員を配置・配置換えを行う	問題個所のクレーム数ゼロ	100%	80%	B		
	特別指導の取組み	校則書写に代わる新しい取組を模索・実施を目指す	各学年オリジナルの取組みを実施	100%	100%	A		
	生徒会の活性化	①月に1度、専門委員会の実施 ②月ごと・年間での取組を各専門委員会で実施	毎月・年間での取組を実施できる	100%	80%	B		
進路指導	生徒の進路意識向上	校内進路説明会、卒業生講話の実施、進学ガイダンスへの参加により生徒の進路意識向上を目指す。	2学年終了時点で進路希望未定者0名	100%	80%	B	1,2年生対象の進路ガイダンスの実施 卒業生講話の実施  AO入試等に対応できる小論文指導体制の構築。  各学校の担当者との連携を深めて指定校枠の拡大・新規開拓に繋げる。	
	進路実現に必要な能力、学力の養成	面接、志望動機作成の徹底指導。コースを越えた進学課外の実施。各種検定取得を生徒に促す。	進路未定者0名 学校幹旋就職100%	100%	80%	B		
	高・大、高・専の連携強化	個別学校説明会や出前授業の依頼&実施し各学校との連携を強化する。	提携校の担当者との信頼関係を深める。	100%	80%	B		
・総務 ・広報	体験入学の円滑な運営	興志館を中心とした体験入学を企画。企画・広告により参加者の増加を計る。	目標値：体験入学参加者1520名	100%	96%	B	参加者1460名。情報発信を工夫し、より一層魅力ある内容を創造していく。  262名の申し込みがあり、217名参加。受付の段階では、目標値より多くの参加者が集まった。  1・2学期の計画分は予定通り実施することができた。しかし、3学期は、コロナウイルス感染症対策の影響により休校となったため、実施を中止した。	
	地域貢献活動の充実	公開講座2019の実施⇒近隣の小学校や公民館にチラシを配布、また、本校ホームページにも掲載し宣伝した。夏休み(8月)に実施。	目標値：全16講座開講し、児童240名	100%	100%	A		
	保護者の学校への意識向上	上級学校見学会の実施 授業参観の実施	見学会年3回 授業参観年3回	100%	80%	B		

自己評価評価基準  
 A:達成できた(A=100%) B:ほぼ達成できた(80%≦B<100%)  
 C:もう少し(60%≦B<80%) D:できていない(D<60%)

評価項目	評価計画			自己評価		改善方法	
	年度重点目標	具体的方策	評価項目・指標	目標値	達成度	評価(3月)	
看護	コミュニケーション力、レジリエンスの強化(「気づき、考え、行動する」を掲げ、自律した生徒の育成)	①九州大学総合臨床心理センター臨床心理士の先生方と相談しながら、コミュニケーション講座の継続	・縦割り班一斉委員会 4回/年 ・5学年合同集会 4回/年 ・縦割りマッチの開催 1回/年 ・出席率99.7% ・部活動加入率45.3%	100%	80%	B	・コミュニケーション講座のスケジュール調整、評価方法の確立 ・実習病院との連携 ・専門委員会の活性化 ・普通科専門委員会との連携 ・縦割り集会、縦割りマッチの実施方法 ・リーダーシップ、メンバーシップの育成 ・携帯電話持ち込みに関する指導 ・自己管理能力(体調面、精神面)を高めるような働きかけ ・感染予防の意識付け ・CAS-DRPの新しい取り組み
		②臨地実習前の学習において、各学年の段階に応じたマナー研修、KYT、OSCEの実施		100%	100%	A	
		③さまざまな講演会や研修の後、その感想を共有できる時間を設ける。(クラスの中で自分の思いや意見を伝える機会をつくる。)		100%	99.8%	B	
看護	基礎学力の向上、確かな知識・技術の向上	④専攻科において、博多メディカル専門学校との協働学習、グループワークの実施 縦割り班活動の充実を図る	戴帽試験不合格者0名 進級試験不合格者0名 国家試験100%合格 助産師学校合格者3名	100%	100%	A	・ルーブリック評価や観点別評価の導入 ・7,8限の活用方法の検討(臨地実習の事前指導方法) ・ICT教育の活性化 ・普通教科の学力向上、評価方法(基礎力、クオリス) ・文章読解力をつけるための手立て ・他学年との共同学習 ・3年生実技発表の在り方 ・専攻科看護研究の発展 ・看護科と専攻科の授業の連携(5年間を通しての授業計画) ・大学編入希望者への指導 ・シミュレーション教育の確立
		⑤専攻科実習におけるルーブリック評価導入後の検証		100%	100%	A	
		⑥看護技術の学年毎の基本事項の統一(評価基準チェックリストの作成)ファイリングの方法の確立		100%	100%	A	
看護	5Sの徹底	縦割り班での清掃、職員室の5Sの徹底	集会での清掃方法の指導。見本写真、チェック表の作成	100%	80%	B	・縦割り班での清掃チェック方法の確立 ・個人の机の中、ロッカーの整理整頓 ・環境委員を中心とした生徒への意識付け
第1学年	基本的生活習慣の確立	遅刻・欠席・怠学などの状況や原因を把握し、3日連続欠席した生徒がいた場合、家庭訪問を行う。	出席率99.0%	100%	100%	A	来年度も継続して指導を行っていく。
		清掃後に点検を実施し、5Sが徹底できているか確認をする。	美化点検4.80点(5点満点)	100%	100%	A	来年度も継続して指導を行っていく。
	礼儀の徹底、社会人として通用する生徒の育成	担任・副担任・学年・保護者が連携し、生徒と積極的に面談を行い、言葉遣い・礼儀を徹底し、校則を遵守させる。	個別指導	100%	70%	B	来年度も継続して指導を行っていく。
		正課授業への真摯な取り組みを指導する。	授業巡回を実施	100%	100%	A	来年度も継続して指導を行っていく。
『志』を持った生徒の育成	目標・夢・志を明確にし、志シートを作成する。	ロッカーに掲示し意識づけを行う	100%	100%	A	来年度も継続して掲示する。	
	総合的な学習の時間で、『偉人伝』の作成を行い、自ら学び、自ら考え、問題解決に努め、探究活動を主体的に行う。	班ごとにプレゼンテーション	100%	100%	A	来年度は、総合的な学習の時間において『8つのアプローチ』を通して、志を学び、目標・夢を明確にする。	
第2学年	基本的生活習慣の確立	3日連続欠席した生徒がいた場合、家庭訪問を行う。また、月末に各クラスの出席率、遅刻回数を提示する。	出席率 99.0%	100%	80%	B	来年度は最上級生の自覚と進路意識を持たせるように指導していく。
		常時、床や棚に物を置かせない指導を行い、美化意識を高めさせる。	美化点検平均4.9点 取り組む姿勢の向上	100%	90%	B	来年度も継続して指導を行っていく。
	学習意欲、学力の向上	定期考査の成績、評定平均を担任・生徒が常に把握し、次の考査の目標を立てさせる。	学年末平均70点以上45%以上	100%	100%	A	学習習慣が向上しているの、継続して指導していく。
基礎学力の重要性を生徒に認識させ、教科担当者と連携し、基礎力テストの成績を向上させる。		基礎力テスト	100%	80%	B	来年度も継続して指導を行っていく。	
第2学年	進路決定につながる人間力を高める	授業始め・終わりの挨拶時の「姿勢」を意識させ、正しい姿勢を意識させる。また、授業時の正しい姿勢が習慣として身に着けさせる。	取り組む姿勢の向上 自ら挨拶が出来る	100%	100%	A	来年度は最上級生の自覚と進路意識を持たせるように指導していく。
第3学年	基本的生活習慣の確立(遅刻・欠席・チャイム席・5分前行動・5S)	学年目標を集会などで生徒に周知させ、遅刻、欠席などを意識させる。また、校内での挨拶や5Sの徹底も進路指導と絡めて指導していく。	出席率99%以上	100%	99%	B	進路を見据えた学校生活を作りをもっと充実させる。
		体育の時間は制服をきれいにたたませることや、教室移動時の机上の整理や座席周辺をきれいにさせる。	美化点検4.6以上	100%	100%	A	クラス別の取り組みになっているので、統一した指導を行っていく。
	基本的学習習慣の定着	進路を見据えて、授業の中で基礎力を伸ばす内容を入れてもらう。	基礎力テスト	100%	80%	B	教科担任に任せきりにならないように学年で協力していく。
第3学年	希望進路実現	体験入学、オープンキャンパス等に積極的に参加させる。就職希望者にも就職指導室などで仕事内容などを調べさせる。	二者面談	100%	96%	A	担任・副担任だけでなく、学全体で情報の共有、協力を行っていく。